第二の狸小路と称された商店街

今年開局百年を迎えた南八条西郵便局が、明治三十五年に設置されたのを皮切りに、大正十年には山鼻信用組合が開設されるなど、金融機関が集中する地域となり、山鼻地区で最も早い、昭和初期から商店街がつくられました。中心部から近いという地の利も生かし、「第二の狸小路」と称されるほどのにぎわいを見せたといいます。

現在の曙振興会は、昭和二年、南八～十一条の商店主により、町内の発展と親交を目的に設立されたものです。二十六年には、札幌市と協力して道路の舗装を行い、三十一年には、三灯式スズラン街灯の設置も行うなど、地域の発展にも大きく貢献しました。

東屯田通

「ふれあいを大切に、地道な活動を続けていきたいですね」

曙振興会　上宮實会長

大正十二年創業の老舗（しにせ）菓子店の二代目として東屯田通で生まれ育ち、現在も通りで喫茶店「クレストンハウス」を経営している上宮實（うえみやみのる）さん。およそ七十年もの間、共に人生を歩んできた東屯田通に、人一倍愛着や思い出があると言います。

「昔は自動車もなく、この通りは子供たちの社交場でしたね。当時は、通りの周辺にいくつも映画館がありまして、上映が終わると人波が通りを埋め尽くしたのを覚えています。本当ににぎやかな通りでした」

そんな活気にあふれた通りも、昭和六十年ころをピークに次第に店舗数が減少し、近年の不況のあおりも受けて、現在は厳しい状況に置かれています。上宮さんが会長を務める曙振興会では、通りにかつてのにぎわいを取り戻そうと、これまでにさまざまな活動を展開してきました。

昭和六十年ころから始めた夏祭りは、毎年八月の第一日曜日に行われている恒例の行事です。この祭りでは、通りを歩行者天国にして開放するほか、以前は人工の池を造り、魚を放して子供たちが遊べるようにするなど、大胆な企画を試みたこともあります。

その後、経費上の問題などで開催を見合わせていた時期もありました。しかし、上宮さんたちの熱意は、住民の心をしっかりととらえていたようで、再開を望む声が多く寄せられ、再び通りの夏の風物詩として親しまれるようになりました。

今では、商店街を利用するお客さんからも、「今年は何をするの」と楽しみにされているそうです。

また、雪まつりの開催に合わせ、街路灯に電飾を施すなど、買い物を楽しく演出する工夫にも積極的に取り組んできました。

昨年十一月には、近隣の行啓通商店街、新通市場と共同で「山鼻村振興会」を設立し、力を合わせて商店街の活性化を目指すという新しい動きも生まれました。山鼻村振興会では、すでに商店や地域の情報を満載したガイドマップ「山鼻村便利帳」や会員証の発行などを行っており、住民や利用客の好評を博しています。

「東屯田通は道幅が広すぎず、自動車中心ではなく、歩きながら買い物を楽しむのにちょうど良い通り」と語る上宮さん。これからも、地域住民とのふれあいをモットーに、商店街同士の親ぼくを深めながら、地道に魅力ある商店街を目指していきたいと考えています。

平成元年の夏祭り（札幌市写真ライブラリー所蔵）

山鼻村便利帳